

カワウを通じて野生生物と人との共存を考える（その16）.  
- アメリカとEUからの最新情報 -

世話人：加藤ななえ(NPO 法人バードリサーチ)

カワウなどウ類と人との軋轢は、日本に限ったことではなく、アメリカでもヨーロッパでも起きています。日本では、被害への対応の考え方や技術の開発が進み、2013年には特定計画技術マニュアル(カワウ編)がガイドラインと手引きという形で更新されました。それでもまだ被害をどのように評価すべきなのか、計画作りの主体はだれなのかなど課題は多くあります。そこで、今回は、海外の最新状況を3名の方に発表していただきます。現地の写真なども盛りだくさんの予定です。そして、今回こそは質問や議論の時間を多めにとれるように進行に配慮します。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

北米ミミヒメウ研究視察報告 ... 熊田那央

2013年4月に、アメリカ北西部オレゴン州のアストリア周辺にて、ミミヒメウの営巣地や調査の視察に行ってきました。日本やヨーロッパで問題となるカワウと同様に、北米に生息しているウ類で問題となっている種がミミヒメウです。今回の視察ではオレゴン州立大のグループの調査や生活を体験させていただきました。このグループはコロンビア川の河口にある島で繁殖しているミミヒメウやオニアジサシについて、サケ科魚類の稚魚の採食被害との関係を研究しています。北米のミミヒメウの状況や、現地での調査生活について報告させていただきます。

6th World Recreational Fishing Conferenceに参加して ... 坪井潤一

2011年8月、私はベルリンで開催された国際魚釣り学会に参加しました。たかが釣りと言うなかれ。世界中の海面や河川湖沼を舞台に、魚釣りにまつわる問題を解決するための研究が水産学はもちろん生態学、社会学、経済学の分野で進められています。釣り学会で行われたカワウ問題に関するセッションでは、カワウによる釣り対象魚の捕食被害から、カワウ個体群の保護管理体制に至るまで、欧米諸国での先進事例が報告されました。本発表では、私が釣り学会で見聞きしたこれらの知見を、日本の現状と対比しながら、ご紹介します。

いづこも同じ!?カワウ事情 ~ヨーロッパのカワウ最前線~ ... 亀田佳代子

ヨーロッパでも、日本と同様かつて減少したカワウが、個体数と分布を拡大し、人との軋轢を生じています。今回は、ヨーロッパのカワウ情報発信サイト「EU Cormorant Platform」の情報をもとに、ヨーロッパでのカワウの個体数と分布の変遷、カワウによって生じている問題とその対応方法や体制などについてご紹介します。2012年8月に、実際に現地を訪れたデンマークとスウェーデンのカワウコロニーの印象も含め、ヨーロッパのカワウ事情の最前線をお伝えできればと思います。